



やあ!

1997
JANUARY
No.47

1



▲那須神社楼門

**青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介
シリーズ NO. 3
ネパール**

リポート

**国際協力こつこつセミナー PART 2
中国浙江省对外人民友好协会設立40周年式典に参加**

- ◆ ト ピ ッ ク ス ふるさとづくり事業でブラジル日系人が来県
TIA定例相談で無料弁護士相談を開催
- ◆ 国際交流団体紹介 國際バガサの会
- ◆ J E T コーナー 外国語指導助手 テレサ・ペレスさん

**市町村文化財紹介
大田原市**

那須神社

那須神社は仁徳天皇（313～399年）の時代の創建とされ、延暦年中（782～806年）には、征夷大將軍坂上田村麻呂が応神天皇を祭って八幡宮にしたと伝えられている。

江戸時代初期に建造された楼門は、昭和55年の修理で創建当時の豪華なものに復元されている。また、社宝としては、那須与一が奉納したといわれる太刀などがある。

その他、春と秋の例大祭に奉納される永代々神樂や獅子舞、流鏑馬の行事などでも有名である。

Nasu Shrine

The Nasu Shrine was originally founded during the reign of Emperor Jintoku (313-399). During the Enryaku Period (782-806) according to legend, Sakanoue no tamuramaro, a Samurai warrior, changed the Shrine into a Shrine for the God of War as an act of worship towards the Emperor Ooshin.

The tower gate that was constructed at the beginning of the Edo Period was repaired in the 55th year of the Showa Period (1980), therefore, restoring the gate to its original magnificent grandeur. Also, amongst the Shrine treasures, there is a long sword that is said to have been dedicated to the Shrine by Nasu no Yoichi.

Also, the Shrine is famous for its yearly Spring and Autumn festivals at which it remains a tradition to perform Shinto dances, a lion-mask dance, and horseback archery.

TIAホームページURL : <http://www.pto.co.jp/tia>

新年のごあいさつ

財団法人栃木県国際交流協会
理事長 大江 敏夫



新年明けましておめでとうございます。

皆様には日頃から、当協会の事業や運営にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。お蔭様で9年目を迎えました。

現在栃木県には80を越える国の約2万2千人の外国人が在住（登録）しております、県民人口の1.1%を占めています。バブル期の急激な増加はありませんが、依然として増加傾向にあることは変わりません。

このような状況のなか、当協会は、相談事業を通して在住外国人の持つ様々な問題に直面してきました。相談内容の中には、関係機関のご協力を得なければ解決できないような複雑なものが多くあります。今後も関係機関と手を携えながら、相談事業を推し進めていきたいと思います。

増加する外国人と共存するためには、お

互いが真に理解できるような広い心を持つことが大切です。昨年、「国際協力こつこつセミナー」を開催し、国内外で国際協力活動に携わっている方々から体験を発表していただきましたが、活動を通して得た素晴らしい心に感動いたしました。国際交流はもちろんのこと、国際協力そして国際理解の必要性が叫ばれる今日、これから時代を担う若者たちも、積極的にこのような活動に参加し、「地球人」になるべく、開かれた心を持つようになってほしいと願います。

当協会といたしましても、地域における国際協力・貢献を更に推進して参りたいと考えておりますので、今年も旧年に増してのご協力をお願い申し上げます。

Happy new year. Thank you very much for all your support and cooperation this past year. Thanks to you we are now entering our 9th year.

Presently, in Tochigi Prefecture, the foreigner population is roughly 22,000 people from over 80 countries this accounts for 1.1 percent of the population. Although this is not a drastic increase as during the Bubble economy era, there continues to be a solid yearly increase.

Amongst these circumstances, we at the Tochigi International Association, through our consultation service, have been confronted by

the various problems that foreigners residing within the prefecture face. Concerning certain issues, at various times we found it necessary to contact organizations specializing in these matters as the problems brought to our attention were so complex and confusing in nature. This year, in cooperation with these organizations, we would like to strive towards continuing and increasing the number of resolutions.

An open mind is vital to further understanding between the native and non-native population. Last year, we held a seminar entitled "Grassroots Cooperation Towards International Relations". It was a magnificent, moving experience to hear the successful experiences of those who are working towards furthering understanding. At the present time with all the talk of the necessity of international affairs, international cooperation, and international understanding, I hope that the next generation who must shoulder the burden of the future, will actively strive towards internationalization with an open mind and truly become people who are globally aware.

We would like to continue to strive towards international cooperation and to further promote it. For this next year, we would like to ask for your continued support and cooperation. Thank you very much.

Toshio OE
Chairman of Directors
Tochigi International Association

JETコーナー

外国語指導助手
テレサ・ペレスさん
(25歳・アメリカ出身)



こんにちは。私の名前はテレサ・アフリカ・ペレス、カリフォルニア州ロサンゼルス出身の25歳です。私は中学校英語指導助手の3年目で、宇都宮に住んでいます。

私は海まで車で15分の所で育ったので、栃木県の山のある風景は新鮮に感じます。L.A.は気候の変化は余りありませんが、日本に来て、日本人が誇りとする四季を経験することが出来ました。だから、「どの季節が好きですか」と聞かれると私は決まって「秋」と答えるのです。良く知られているようにアメリカの他の州と違い、L.A.では紅葉もしくは葉の色が変わることはありません。日光までたったの1時間ということもあり、気軽に出て山を覆

う毛布のような鮮やかな紅葉を楽しんでいます。それに秋は寒くも暑くもなく、雨も少ないので、私は秋が一番好きなのです。

日本に来る前、私は決して日本食を口にしようとしたくなかったです。今は、ねばねばした物を除いたら大抵の物は好きです。餅団子、お好み焼き、タコ焼きは私の大好物です。もう一つの大好物は、皮肉にも日本食ではなく中華で、宇都宮ではとても有名な、あの餃子なんです。アメリカの餃子は「ポットスティッカー」と呼ばれ、日本と同様の脂っこい餃子ですが、みんなの餃子のように美味しいとは思えません。

人生に大きな影響を与える要因は沢山ありますが、学校の先生達を含め、出会って友となれた人たち程大切なものは無いと思います。もし私の大好きな秋も日本の食べ物も持て帰れないのであれば、素晴らしい思い出と、日本で得た友情を大切に持つて帰ろうと思っています。（概要訳）

Hi. My name is Teresa Africa Pérez. I'm 25 years old and come from Los Angeles, California. I am a third year junior high school ALT and live in the capital of Tochigi-ken, Utsunomiya.

Having grown up with the ocean only a 15 minutes drive away, the mountain views of Tochigi-

ken were a pleasant change of scenery. In L.A. the weather, for the most part, is warm year-round. Here I got to experience the four seasons every Japanese person is so proud of. So when asked, "What is your favorite season?" I always answer, "Autumn". Unlike other parts of the States, L.A. doesn't have (紅葉) or the changing of the leaves, as it is better known as. Only an hour away from Nikko, I can go there and enjoy the brightly colored blanket of woven trees that cover the surrounding mountains. That is what I like most about that seasons here in Japan. It's also the only season where the weather isn't TOO COLD, TOO WET, or just down right TOO HOT.

Before coming to Japan I had never tried any Japanese dishes. I didn't want to insult anyone, so I ate whatever people gave me. Now, with the exception of most ねばねば things, I like to eat just about everything. I especially like mochi. Dango is another favorite of mine, as are okonomiyaki and takoyaki. Another big favorite of mine is ironically enough not Japanese, but Chinese and Utsunomiya is famous for it. Of course I'm talking about gyoza. Where I live back in the States we call them "pot stickers". Just as greasy, but in my opinion not as good as みんな's. With so many Japanese restaurants back home, none is remotely as good as the whole in the wall, mom and pop shops that I've found wandering around Utsunomiya, and Japan.

There are many factors that affect a person's life, but none more important than the people they meet and befriend. I've encountered many types of people during my travels through Japan. Almost all of them willing to go out of their way to help you if they can. I've also become very good friends with some of my teachers. If I can't take with me the Autumn season or my favorite foods, then I'm sure going to take back the great memories and friendships that I've made during my first two years here and the third that has only just begun.



リポート

国際協力こつこつセミナー PART 2

前号に引き続き、TIAとJICA関東支部の共催で開催した「国際協力こつこつセミナー」の第4回・5回をリポート。県内の国際交流・協力団体で活躍されている人たちがパネラーとなったシンポジウムと、外国人医療の最前線に立つ方々の講演が行われた。

第4回 ミニシンポジウム

「地元でこつこつやる方法」

1996年11月7日

第4回セミナーは、栃木県内で活躍されている国際交流・協力団体から5名の方が集まり、「地元でこつこつやる方法」をテーマに、それぞれが所属する団体の活動事例を挙げ、地元でどのように実践していくかについて話し合った。

パネラーは「アジアの問題を考える会」の中村千恵子氏、「グローバルグループ」の星野洋子氏、「交流会・仲間」の福田静江氏、「栃木インターナショナルライフライン」の志田正彦氏、「交流グループ・フレア」の手塚美保子氏。まず初めに、団体の活動を紹介した。

「アジアの問題を考える会」は、12年前に発足し、タイの「子どもの村学園」への

教育資金援助をはじめ、在日外国人（アジアからの労働者等）の問題に取り組んだり、車椅子を開発途上国に送る運動を行っている。鹿沼市を中心に活動している「グローバルグループ」は、鹿沼市の委託による“外国人のための文化講座”を年に6～7回開催し、外国人に日本の文化・伝統を教えたり、外国人との食文化交流を行っている。「交流会・仲間」は、宇都宮市が受け入れている中国チチハル市の研修員への日本語指導、在県外国人への生け花・茶道の紹介他、留学生や研修員との交歓会や、会員の外国語能力向上のための中国語・英語講座を実施している。外国人の医療問題に対処するために医療関係者によって設立された「栃木インターナショナルライフライン」は、医療相談窓口を設け、困っている外国人に情報を提供したり、治療がスムーズに行えるように“外国人医療11カ国対訳表”を作成したりしている。氏家町を中心に活動している「交流グループ・フレア」は、会員の7割が日本人に嫁いできた外国人女性で、日本の習慣を勉強したりしている。

このような様々な交流・協力活動の中で、これから始めたいという人達へのアドバイスとして、「関心のあるものに飛び込む」「近隣に住む外国人に声を掛けてみる」「交流イベント等に積極的に参加する」「人との出会いを大切にする」「ボランティアで報われることを期待しない」などが発言された。また、中村氏は、豊かな生活をしている自分たちの生活を見直し、例えばリサイクルを行ったりすることが国際協力に繋がることであると訴えた。その他、福田氏は、国際交流の相互理解について、相手の立場を尊重しながらも自分の考えをはっきり述べることが必要であると話した。



▲県内の国際交流・協力団体の代表が集まったミニ・シンポジウム

第5回 講演会

「在日外国人の医療とカウンセリングの現状」「外国人をとりまく医療制度の問題点」

1996年11月14日

最終回の第5回セミナーは、外国人の医療問題について、栃木県精神保健福祉センター所長の大西守氏が「在日外国人の医療とカウンセリングの現状」をテーマに、また、栃木インターナショナルライフライン（TILL）代表の根本佳和氏が「外国人をとりまく医療制度の問題点」をテーマに講演した。

最近増えてきている在日外国人の精神障害について大西氏は、その原因について生活上のストレスの他に、滞在の動機や目的がしっ



大西守氏

かりしているか、日本語は話せるか、母国の家族や会社からの支援はあるか、帰国後の計画は立てているかなど、総合的な要素を考えいかなければならないと述べた。また、患者の症状や状態について、①急に発症し治療後急に直ることが多い、②母国で精神科受診歴を持つ者が多い、③ストレスの反応で体の痛みなど身体不調を訴えることがある、④生活上の情報不足から誤解が生じ妄想が出現する、⑤不法滞在などの法律的問題や治療費などの経済的問題が付随する、などの特徴を話した。そして対応（治療）として、通訳を通して母国語で話させリラックスさせる、初診の際は無理に聞かない、精神症状を良くするだけではなく法律的・経済的问题も併せて解決する、早めに帰国するよう促す、などを挙げた。

次に、済生会宇都宮病院の医師でもある根本氏は、栃木県に外国人が増えた6年前に、当時目立ちはじめた様々な外国人の医療問題に対処するためにTILLを設立したと経緯を話し、今まで行った活動内容やその問題点を説明した。言葉の問題

で自分の病気をうまく伝えられないという患者のために作成した医療用語対訳表は、全国から要望があった。また、県内で外国語が通じる医療機関を掲載した「外国人のための医療機関リスト」は、多くの場所で活用されている。TILLでは相談電話を設け、内容により通訳の派遣等適切な対応をしているが、最近では病気の相談以外に、子どもをどう育てたらよいかというような生活相談も増えてきているとのことだ。その他、無保険状態から生じる医療費の未払いについては、結局医療機関が被ってしまうことが多いので、公的機関に解決方法を考えいただきたいと訴えた。

根本氏は、自らザイル・ゴマ難民キャンプや阪神大震災の神戸で医療ボランティアを行った体験から、NGOボランティアの機敏性に触れ、TILLもビザの種類とかに關係なく、患者本位の姿勢で活動できることが利点であると話した。



根本佳和氏

ネパール NEPAL

国名の「ネパール」はサンスクリット語で「足、ふもと」の意味で、ヒマラヤ山脈のふもとに位置するこの国をよく表現している。世界最高峰のエベレストは、登山家の憧れの的。また、山並みの美しさにひかれトレッキングに訪れる観光客も多い。

ヒンズー教徒が国民の90%を占めているが、釈迦の誕生の地でもあるので仏教徒もいる。「家の数より寺院が多く、人の数より神さまが多い」といわれている。

空手を学べば強くなれる

私の協力隊活動内容は、柔道の隊員とともに、内務省国立警察訓練学校の12歳から35歳までの警察官や訓練生計100人に空手を教えることでした。彼らには護身術や逮捕術がまったく備わっていないんです。2年間の滞在で私が目標としたのは、7つの警察学校の空手指導員を養成することです。そこで日本でも通用する段を取らせたいと思い、栃木県から私の先生を審査員として招聘し、カトマンズの学校で試験を行いました。私も先生と呼ばれていましたので、「先生の先生が日本から来た」ということで新聞・テレビ・ラジオで大ニュースになりました。

結局2段が4人誕生しましたが、指導員は3段以上なので、後任の隊員が引き続き指導しています。ネパール人の男性は空手に対してすごく興味をもっています。「空手をマスターすれば強くなれる」と信じているんです。

毎日の練習は道場がないため外です。国



▲広場で警察官や訓練生に空手を教える飯田さん

飯田波樹さん(25歳) 栃木リコー株式会社西那須野営業所勤務

**案
内
人**

4歳から始めた空手(現在3段)を活かすために、青年海外協力隊の空手指導員として1994年7月から1996年7月まで2年間、ネパールの首都カトマンズの内務省国立警察訓練学校で空手を教える。現職参加。飯田さんをきっかけに、栃木リコーで青年海外協力隊のための休暇制度が設けられた。

に道場を造るよう要請しても、予算がないといって断られました。雨期の4月から9月は大変です。屋根があるところを探すのに苦労しました。

日本の常識が通じない

日本の武術は「礼に始まり礼に終わる」ですが、ネパール人はこれを疑問に思い、「なぜ礼をしなくてはならないのか」と聞いたり、練習中にガムを噛んでいる人がいたので怒ったら「なぜ駄目なんだ」と言ったり…日本では当たり前なことが、ここではそうではない。武術への精神や美德が違うので、例えば試合で負けることを恥と捉えてしまい、挙げ句は、負けるくらいなら試合を始める前に「負ける」と宣言したほうが男らしいなどと言うんです。私はまずこの意識を変えることが必要だと思いました。そこで武術に特有の「気」を教えようとしました。でもネパール語ではうまく伝わらない。幸い、協力隊の訓練期間に私にネパール語を教えてくれた語学の先生が帰

国したので、彼にこの「気」の意味を通訳してもらいました。驚いたことに、皆が目を輝かせながら、説明を聞いていました。きっと武術における「気」の大切さをようやく学んだのだと思います。



▲ホームステイ先で自家製バター作りを手伝う

牛肉はダメ、鶏肉は高級品

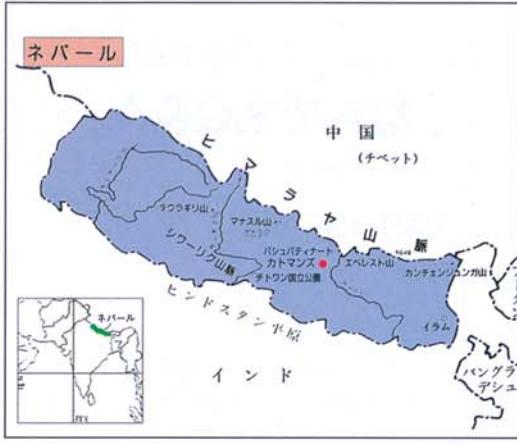
最初の半年は大家族の家でホームステイをしていました。食事はほとんど毎日カレー。ちょっと飽きましたね。でも日本のカレーと違い香辛料が効いているのでおいしいです。自家製のものが多く、バター作りを手伝ったりしました。

ヒンズー教徒は牛肉を食べませんが、その他の肉は食べます。でも一般家庭では肉類、特に鶏肉は高級品で、お祭りなど特別な日にしか食べることはできません。お客様が来たときは、唐がらしと一緒に食べる牛乳で炊いた砂糖入りご飯や、卵を出します。また地酒は粟や米で造り、日本の焼酎に似ています。ネパールは部族が多く、食べ物も部族によって異なるので、他にもたくさんの料理があるでしょう。

物価は、カトマンズは他の町から比べると高いです。でもレストランでは50円で食



▲男の子が化粧する祭り



事ができます。因みに卵1個4円、コーラは18円。ビールは130円と高いので、地酒で割って飲む人がいます。

給料は、私の知っている限りでは、25歳くらいの警察官が月3,000円、訓練生は1,000円です。ネパールは貧富の差が激しく、輸入業などの商人はお金持ちで、大多数の農民は貧しい生活を送っています。より良い給料や職を求めて田舎から多くの人がカトマンズにやって来ますが、やはり仕事がなく大半が失業状態です。このような人達で造られたスラムもあります。劣悪な環境のせいで、乳児死亡率が高いのも特徴です。

住居については、家は普通レンガで造られます。一方田舎では、牛の糞と土を混ぜて造ることもあります。その他服装ですが、既婚の女性はサリーという一枚布を体に巻きます。結婚などのおめでたいときは赤を着ます。男性は普通の洋服です。正装のときに帽子をかぶります。年配の男性は帽子が好きなようです。

他のアジアの国々同様、アメリカの音楽がかなり入ってきています。しかし、笛と太鼓のネパール民族音楽も人気があります。セレモニーのときは本当に楽しそうに歌って踊ります。日本ではないと思いますが、子どもから老人までみんな同じ歌を歌うことができるのがすごいですね。それだけ自分の国の歌を愛しているのでしょう。

人気のスポーツはサッカー。過去のイギリスとの関係から、クリケットも盛んです。そしてもちろん空手人口も多いですよ。



どこを歩いても寺院にぶつかる

ネパールの美しさは、やはりヒマラヤ山脈につきます。天気が良ければカトマンズからもよく見えます。私は、エベレストルートのトレッキングで、カラバタール山(標高5,600m)を登りました。このとき高山病にかかってしまい、吐き気、目眩、頭痛、顔のむくみなどの症状でひどい目に遭いました。自分で言うのもなんですが、これからネパールでトレッキングをされる人は高山病に気をつけたほうがいいですよ。

この国のもう一つの特徴は、国中どこを歩いてもヒンズー寺院か、仏教寺院にぶつかるということです。毎朝お参りに行く人もたくさんいます。巡礼の地で有名なのは、「ネパールの聖地」と呼ばれるバシュバティナートのバグマティー川です。この川は、インドのガンジス川の源流でもあります。また川の周辺では自称「聖人」(?)に出会えるかもしれません。

ペワ湖という

きれいな湖があるネパールのリゾート地・ポカラは、観光客が後を絶ちません。その他インド寄りのチトワニ国立公園はサファリパークになっていて、象、トラ、カバ、サイ、ワニ、など豊富な野生動物



を見ることがあります。

空手の遠征試合でネパール中を旅行しましたが、私が特に気に入った場所を一つ挙げるすれば、西の国

境に近い町のイラムです。紅茶の産地として有名で、日本を思い出させるような段々畑があります。ちょっとノスタルジーを感じました。町中にお茶の葉の香りが漂っているのも素敵ですよ。

日本語が大人気

ネパールの若者像を一言で表現するなら「純真」です。お金がない彼らは、人と人とのつながりを大切にします。だから友人を多く作りたがります。また、日本語学校で日本語を学ぶ人が多いです。将来日本人観光客のための仕事に就きたいというのがその理由でしょう。

ネパール人は、日本人が失いかけている心の豊かさをまだ持っています。2年間の滞在で、私自身その大切さを学びました。

ネパール王国



[国旗の意味]

青で縁取られた赤の三角が上下に重なり、上に月、下に太陽が白く描かれている珍しい国旗。月と太陽は、ネパールがヒンズー教国であることを示している。

- | | |
|--------|----------------------------|
| ① 面積 | 140,797km ² |
| ② 人口 | 2,136万人(94年) |
| ③ 首都 | カトマンズ |
| ④ 主要言語 | ネパール語 |
| ⑤ 宗教 | ヒンズー教、仏教 |
| ⑥ 元首 | 国王 |
| ⑦ 建国 | 1951年に王政復古 |
| ⑧ 通貨 | ネパール・ルピー |
| ⑨ 時差 | 日本より約3時間遅れ |
| ⑩ その他 | 協力隊員の派遣人数829人
栃木県からは12人 |

国際パガサの会

国際パガサの会は、平成7年1月に設立され、日本定住のフィリピン人妻そして日本人の夫及びフィリピンに関心を持つ方々が集まって、様々な友好親善の活動を行っています。

今まで、会員間の親睦を図る活動を行うとともに、国際ガイドコンテストにおけるフィリピンの踊りや文化紹介、国際結婚の抱える問題を考える活動等に参加してきました。今年度は「とちぎインターナショナルフェスティバル」において、伝統的なフィリピンの踊りを披露すると同時に、フィリピンの典型的な料理を味わっていただいたり、パンフレットなどを使ってフィリピンの政治、経済、文化を紹介したりしました。また、現在、宇都宮市の要請を受け、日本の学校への適応に困難を感じているフィリピン人子女の日本語習得を手助けしたり、国際結婚に関わる問題に悩んでいる人に対して助言等を行ったりしています。

これから事業については、団体の目的である“国際交流活動を通しての日比間の相互理解と友好親善”を軸として、T I L L（栃木インターナショナル・ライフライン）のボランティア通訳や、その他日本とフィリピンの親善を深めるボランティア活動等をしていく予定です。会員という面では、もっと日本人会員の入会を促進し、できればフィリピン人以外の外国人の方にも仲間になっていただき、将来、もっと広い意味での国際協力活動を行っていきたいと考えています。

「パガサ」とはフィリピンの言葉で「希望」を表します。私たちの交流活動が多くの方々に希望の種を蒔ければと思います。皆さんもパガサの会に入って一緒に活動してみませんか。（代表：富原ジェンマ ☎028-634-7215）



▲とちぎインターナショナルフェスティバルで、ミンダナオ島の結婚式で踊るイスラム舞踊を披露

知ってて得する なんでもQ&A

[海外留学について パートⅢ]

今回は、大学入試に必要なテストについてです。

留学するためには、国または学校によってどのようなテストを要求するかは違いますが、例えばアメリカやカナダの場合はTOEFL、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの場合はIELTSが必要となります。また、学力テストの受験が必要とされる場合もあります。アメリカの短大や大学に高校卒業後すぐに留学する場合はSAT、ACTが、大学院希望者はGRE、GMATというテストの受験が要求されます。

留学する国や学校についてどうなっているか個別に確認することが大切です。

必要な書類及びテストの結果等が揃ったらいよいよ出願です。

次回はビザ申請に関してです。

気軽においしくエスニック タイ料理講習会

「タイ料理と一緒に作ることによって文化を学ぼう」と、11月27日、栃木県消費生活センターにおいて、タイ料理講習会が交流会「仲間」（福田静江会長）とTIAの共催で開催された。

料理の講師は県内在住のタイ人、ウイバーさんとナタポンさんの2名。タイの代表的な料理「トムヤンクン」や、バナナの葉で包んだココナッツミルク入りの「やきもち」など3品が作られた。

参加者は一般県民24人。「スープに香辛料をいっぱい入れるのに驚いた」「エスニック料理はインパクトがありもう一度食べたくなる」との声があった。



▲タイ料理を教えるウイバーさん（中央右）とナタポンさん（中央左）

トピックス TOPICS

日系ブラジル人9名が来県

ふるさとづくり事業の一環として、ブラジルの日系人社会で活躍する青年リーダー50人を日本に招聘し、日本の地域振興・活性化に指導的な役割を担っている地域リーダーとの交流を通じて日伯両国の地域レベルの国際化を促進し、両国の友好関係を一層深めることを目的とした「ブラジル日系人ととの交流を通じたふるさとづくり事業」



▲ろまんちく村内のフラワードーム



▲栃木県保健環境センターで大気環境情報システムの説明を聞く

が同実行委員会（事務局：自治体国際化協会）によって、11月25日～12月4日の10日間実施された。

プログラムのなかの地方交流事業として関東甲信越地区の都県にゆかりのある9名（栃木県はパラナ州の田中カシオさん）を、11月27日～12月3日、TIAが受け入れた。副知事及びTIA理事長表敬訪問をはじめ、宇都宮市総合コミュニティーセンター、栃木県保健環境センター、済生会宇都宮病院、松下電器産業宇都宮工場の視察や、ろまんちく村、ウエスタン村を見学した。また東照宮や華厳の滝を見学し、日本の美しい建築物と自然を堪能した。その他、11月30日～12月3日は、それぞれ各都県の受入親族の家にホームステイした。

浙江省人民対外友好協会40周年 式典参加リポート（平成8年11月19日～26日）

昨年11月20日、杭州市のシャングリラホテルで浙江省人民対外友好協会の40周年記念式典が行われた。友好協会は、1956年に世界の人々と浙江省人民の相互理解を深めることを目的として設立、以来各国と各種の友好交流を行ってきた省クラスの民間友好団体である。今回の式典には、オーストラリア、オーストリア、米国、モンゴル、タイ、ベトナム、韓国など姉妹関係を持つ国や地域から17団体が出席し、日本からは姉妹関係を持つ静岡、福井、岐阜、栃木の4県市が参加した。本県からは県国際交流協会の大江理事長が招待され、出席した。また友好協会の事業を説明した写真展も同時に開催された。

式典の行われたホール前では、龍の舞や太鼓が来賓を歓迎した。式典では、長年友好交流に尽力された方への感謝状と今後より一層浙江省との友好交流を続けてほしいとの意を込めた掛け軸が沈祖倫会長より手渡された。式典終了後は、アトラクションとして浙江省の雑技やマジックで代表団らを楽しませた。

この式典にさきがけて、万学達省長と外国からの17の代表団との会見が西子国賓館で行われ、省長は、これまでの積極的な友



▲沈会長から掛け軸を贈られる大江理事長



▲発展する寧波港の
魅力を説明

好交流を高く評価するとともに、今後の友好関係に期待を寄せた。また、日中友好協会副会長の辻一彦氏が代表として、祝辞を述べ、各分野において、協力していくと伝えた。夜行われた祝賀会では、胡弓等の古典楽器を使った演奏や各国の代表団がお国の方を披露し、大変盛り上がった。

翌日から行われた開発区の視察では、目ざましく発展を続ける浙江省を垣間見ることができた。杭州市経済開発区、紹興軽紡績工場の見学、寧波市経済開発区、寧波北侖港の視察を行った。この中でも、特に、浙江省最大の港の寧波港は三つの港からなっており、今回、訪れた北侖港は李鵬首相が称賛した「東方大港」で、日本の神戸や横浜とも定期便のコンテナーボートの航路の開かれている中国第4位の最新設備を持った港であった。寧波市経済開発区は華僑による投資が多く、今回見るかぎりでは杭州よりも開発が進んでいるようであった。

今回の視察で今までの中国と違った印象を覚えた。今後ますます発展していく要素をもっており、現在行われている経済政策が実を結び、中国の掲げている“21世紀には先進国の仲間入りを果たしたい”という目標に向かって邁進していることを強く感じた。

（業務課　藤井俊昭）

無料法律相談に20名

11月12日、TIAが栃木県弁護士会の協力で開催した「外国人のための無料法律相談」に、中国人、ブラジル人など8か国20名（日本人1名を含む）が訪れた。

相談内容は交通事故、結婚・離婚、労働・労災、在留資格、医療などのトラブルや問題で、日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・ペルシャ語の通訳を介して弁護士からアドバイスを受けた。

TIA日誌

1996年11月1日～1996年12月31日

- 11/7 国際協力こつこつセミナー
(7・14、プラザインくろかみ)
- 11/9 日仏青少年短期研修事業仏高校生帰国
- 11/11 海外技術研修員県外視察旅行(～16)
県費留学生県外視察旅行(～14)
- 11/12 無料法律相談
(自治会館)
- 11/13 青年海外協力隊秋募集説明会
(13足利市・22小山市・25宇都宮市)
- 11/17 第2回国連英検一次試験
(字大)
- 11/19 浙江省訪問団出発
(～26)
- 11/21 日仏青少年短期研修事業派遣生徒選考会
(自治会館)
- 11/22 関東地域国際化協会連絡協議会
(横浜)
- 11/26 ブラジル日系人と交流を通じたふるさとづくり
(～12/5)
- 11/27 ブラジル日系人と交流を通じたふるさとづくり TIA表敬
(自治会館)
- 12/6 とちぎインターナショナルフェスティバル反省会(プラザインくろかみ)

宇都宮←成田空港

（直通高速バス マロニエ号）
空港ターミナル出発ロビーへ2時間50分！

●運賃・片道

大人 4,000円

小人2,000円

●15名様以上団体割引

●お問い合わせ・ご予約は

マロニエ予約センター
☎(028)638-1730

成田空港ゆき		宇都宮ゆき	
宇都宮発	成田空港着	成田空港発	宇都宮着
5:10	8:00	8:30	11:20
6:10	9:00	14:40	17:30
8:30	11:20	15:40	18:30
10:10	13:00	17:00	19:50
12:00	14:50	18:10	21:00
14:00	16:50	19:40	22:30

または関東バス各営業所へ
関東バス

第62回 定期演奏会

曲目 ラ・ヴェル
ラ・ヴェル
ベルリオーズ
亡き王女のためのパヴァーヌ
ピアノ協奏曲ト長調
幻想交響曲



指揮
松尾 葉子

ピアノ
横山 幸雄



2/2(日) PM 2:00 ▷宇都宮市文化会館大ホール
全自由席￥1,000 宇都宮市内プレイガイドにて前売
お問い合わせ 栃木事務局 ☎028-623-3422

TIA Information Corner

情報発信 地域の国際交流案内

★いっくらアジアフォーラム「地球家族のきずな求めて」

▶日時=1997年3月8日(土) 13:30~18:30 ▶場所=とちぎ女性センター・パルティホール ▶内容=①基調講演「アジアと日本を考える~共に生きるために」、講師:前在インドネシア日本国大使館公使・神長善次氏(烏山町出身)、②平成8年度外務省長期青年文化人の皆さん「9か月間の研修を終えて」、③お別れレセプション ▶定員=400人 ▶参加料=無料 ▶問い合わせ=いっくら国際文化交流会・長門 ☎/FAX028-625-0050

★お隣さんは外国人Part II、おんな一井戸端会議ーほんね、女が変われば社会が変わる?

佐野市近辺に住んでいる外国人女性や、在日外国人女性の支援をしている団体の代表に、彼女たちが実感した男女不平等、差別、日本での問題を伺い、住みよい社会に変えていく糸口を探る。▶日時=1997年2月15日(土)13:00~16:00 ▶場所=佐野市文化会館201号室(託児付) ▶内容=シンポジウム及びフリートーキング ▶対象者=一般県民 ▶参加費=500円 ▶問い合わせ=国際交流たみの会・チャンドラー恵子 ☎0283-22-7442

★国際ガイドコンテスト

日頃ボランティアガイドとして活動している方々の発表の場として開催される「国際ガイドコンテスト」。優れたガイドの内容に加え、個性的な演出で会場を楽しませてくれる。▶日時=1997年2月23日(日) 13:30~16:00 ▶場所=コンセーレ小ホール ▶内容=英語によるガイドコンテスト、英語人形劇「注文の多い料理店」(宇都宮SGGクラブ)、フィリピンのダンス(インターナショナル・バガサ) ▶入場料=無料 ▶問い合わせ=とちぎYMCA ☎028-634-8581

★心に刻むアウシュヴィッツ展

ポーランド国立オシフィエンチム博物館所蔵の遺品、記録画、記録写真が展示される。また、写真展「アンネ・フランクとマルゴット」も同時に開催する。▶期間=1997年1月14日~22日 10:00~18:30 ▶場所=栃木県総合文化センター第2・3ギャラリー ▶入場料=一般600円、高校生以下300円 ▶問い合わせ=開く会栃木県事務局 ☎028-652-0725

★日本YMCA農村青年塾

▶期日=1997年1月24日(金) 13:00~26日(日) 13:00 ▶場所=日本YMCA同盟国際青少年センター「東山荘」(静岡県御殿場市東山1052 ☎0550-83-1133) ▶内容=高見敏弘氏(アジア学院創設理事)による講演、星寛治氏(有機農業実践者・農民詩人)による講演「いま、農と食をどうする~未来のいのちへの責任」、韓国農村問題レポート、アジア・アフリカからのレポート、グループディスカッション他 ▶対象

者=農業・農村問題、食料・環境問題に関心をもつ青年男女50人 ▶参加費用=2万円 ▶問い合わせ及び申込先=とちぎYMCA日本農村青年塾(〒320栃木県宇都宮市宮園町5-33矢野ビル2階 ☎028-634-8581・FAX 028-634-8771)

★新作海外安全啓発ビデオ「海外旅行・あなたもターゲット!~巧妙な犯罪手口とその予防法教えます」

海外で事件・事故に巻き込まれる日本人が増加しているなか、外務省では被害をより少なくするために、平成8年度版の海外安全啓発ビデオを作成した。空港での「置き引き」、ホテルでの「強盗」、麻薬トラブル、銃器による凶悪犯罪などの事例と予防法を紹介している(約8分間)。

一般的の貸出しも行っているので、希望者は外務省海外安全相談センター(☎03-3581-3749)へどうぞ。

TIA 賛助会員募集中!

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ(海外→日本、日本→海外)をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われておらず、地域の国際化のために役立っています。

○読者の皆様、おめでとうございます。一年が過ぎるのは「あっ」と言う間で、1997年になってしまいました。21世紀までもうすぐ。激動の20世紀の次に訪れるものは一体何なのでしょう?「地球人」による平和な社会か、それとも…鍵を握るのは私たち皆です。

○今年の10月、TIAは10年目を迎えます。「10年」といって思い浮かべるのは、「一昔」と「スウィートテン・ダイヤモンド」。一昔前の国際交流はどんなだったのか、思わず回想してしまいます。ところで本当に「スウィートテン・ダイヤモンド」を渡す旦那さんっているのかな?

※財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄附金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。つきましては、当協会の事業にご賛同下さる各企業、団体、ほか皆さまからのご出捐をお願いしております。

